

芸術の秋スペシャルコンサート 渡辺貞夫カルテット

PROFILE

渡辺貞夫 / Sadao Watanabe (Alto Saxophone)

1933年宇都宮生まれ。高校卒業後に上京、秋吉敏子のコージー・カルテットをはじめ数々のバンドに参加。1962年バークリー音楽大学への留学後は、ブラジル音楽、アフリカ音楽を取り入れた独自の音楽スタイルで世界を舞台に活躍。1978年にリリースしたアルバム『カリフォルニア・シャワー』はゴールドディスクを受賞し、1980年にはジャズミュージシャンとして初めて武道館でコンサートを行う。2005年“愛知万博”では政府出展事業総合監督として世界中から集まった子供達400人と歌とリズムで共演。2016年オバマ前米大統領夫妻がホストとなりホワイトハウスで開催された「International Jazz Day 2016」に日本を代表して参加。2019年12月スティーヴ・ガッド(ds)、ジョン・パティトゥッチ(b)、ラッセル・フェランテ(p)との共演を収録したライブ盤『SADAO 2019 Live at Blue Note Tokyo』をリリースし、CDショップ大賞 2020 ジャズ賞を受賞。2020年12月自身の選曲による二枚組の70周年記念コンピレーション・アルバム『ルック・フォー・ザ・ライト』をリリース。2021年、サントリーホールでの70周年記念コンサートの演奏を収録したアルバム『ジャズ&ボッサ〜ライブ・アット・サントリーホール』をリリース。国内のみならず、海外に於いても精力的に演奏活動を行う生涯現役プレイヤーのその姿は、世界中の老若男女に勇気と感動を与えている。



竹村一哲 / Ittetsu Takemura (Drums)

11989年札幌市生まれ。9歳からYAMAHAにてドラムを大山淳氏に師事する。2005年、中学卒業と同時にプロとして活動を開始する。2006年、石田幹雄トリオで「横濱 JAZZ PROMENADE 2006」ジャズ・コンペティションに出場し、グランプリ賞と市民賞をダブルで受賞し、同トリオでCDを発売する。現在は東京に拠点を移し、幅広い音楽性のミュージシャンらと共演する。2010年渡辺貞夫のツアーに初参加。2019年3月には日米混合編成による「SADAO WATANABE QUARTET」のメンバーとしてブルノート・ニューヨークに出演する。同年、竹村一哲カルテットを結成し活動をスタート。2021年7月に初リーダーアルバム「村雨」を発表。これからの活躍がますます期待されるドラマー。



小野塚晃 / Akira Onozuka (Piano)

1967年生まれ。18歳の時にプロとして活動を始め、数多くのアーティスト達のレコーディングに参加。その力強さと優しさを兼ね備えたプレイは、アーティストからの大きな信頼を得る。1992年には「DIMENSION」を結成し、これまでに30枚のアルバムをリリースし国内外のライブ活動などを行ってきたが2020年に脱退。渡辺貞夫グループの一員として27年目を迎える今日では、グループの要となる存在である。2019年8月に4枚目のソロアルバム「天空の楽園」をリリース。多方面のミュージシャンと精力的なLIVE活動を行なう傍ら、自己のピアノトリオで自身の音楽を追究している。



須川崇志 / Takashi Sugawa (Bass)

群馬県伊勢崎市出身。11歳の頃にチェロを弾き始め、18歳でコントラバスを始める。2006年バークリー音楽大学を卒業後、ニューヨークでは菊地雅章氏に師事する。2009年に帰国後、辛島文雄トリオを経て日野皓正クインテットで6年間活動する。近年は岡本太郎記念館の企画展「日本の原影」のためのソロ楽曲制作(2019)や、俳優の金子あいの舞台「平家物語」に即興演奏で参加。現在は自身が主宰するトリオ、Banksia Trio(林正樹、石若駿)をはじめ、峰厚介カルテット、本田珠也トリオ、八木美知依トリオ他多くのグループに参加。

